

第21回

英語の歌を歌う ～楽しく歌おう(4)～



講師
馬淵明彦

学習のねらい

今回は、アメリカの歌を楽しんでいきましょう。
1曲目は、日本でもおなじみの兄妹デュオのカーペンターズの「Sing」です。妹のカレンは幅広い声域と明瞭で美しい発音、そして歌唱力が魅力です。また、この曲は子ども向け番組の挿入歌だったもので、カーペンターズが歌うときには必ずバックコーラスに子どもの合唱が入っています。2曲目は「明日へ架ける橋」です。サイモンとガーファンクルのサイモンがゴスペルに影響を受けて作った曲で、南アフリカでは賛美歌としても歌われています。

呼吸法と発声

今回の呼吸法と発声法では、歌うときの体の使い方でも基本となる「脱力」について学んでいきます。

力が抜けている状態がどのようなものかということを実際に感じ取れるようになることが大切です。脱力を実感する練習として、首をゆっくり回しながら声を出してみましょう。首が楽に動かせる状態を保って声を出します。「アー」と歌うときに肩や首、胸などは脱力をイメージし、腹式呼吸のためのおなかの力だけを意識して声を出しましょう。第18回で練習したリップロールも、顔の余計な力を取る脱力の練習になります。

歌を歌うときは、不要な力を抜くというのが本当に大切なことです。不要な力が抜けると、もっと自由に体が使えて、楽に歌が歌えるようになります。

「Sing」を英語で歌う

「Sing」は、カーペンターズが歌って有名になった曲です。もともとは子ども向けテレビ番組『セサミストリート』の挿入歌として発表された楽曲で、ジョー・ラポーソの作詞・作曲によるものです。カーペンターズは、アメリカのリチャード・カーペンターとカレン・カーペンターの兄妹ポップス・デュオで、この2人がアメリカABCテレビの番組『セサミストリート』に出演した際に子どもたちがこの曲を歌うのを聴いて自分たちも歌うことを決めました。そして、レコーディングのときには、ジミー・ジョイス少年少女合唱団がコーラスで参加しました。

さて、歌を歌うときにいつも気をつけておかなければならないことは、その曲を最も盛り上がるところをどういうふうに歌うかということです。

この曲の場合、“make it simple”から始まるメロディーで、音が高くなっていくところで

すが、気持ちの高揚や音が高くなるのに合わせて、声を大きくしていきます。そのとき、余計な力を入れずに脱力し、腹式呼吸を意識して声をふくらませるようにしましょう。

アメリカのポップスを歌って楽しむ

次に「明日に架ける橋」を聴いてみましょう。歌っているのは、1960年代に活躍したユダヤ系・アメリカ人のポール・サイモンとアート・ガーファンクルで、ポピュラー音楽のユニットです。1964年にデビューし、1970年に活動を停止しましたが、それ以降も折に触れて2人で活動していました。1990年にはロックの殿堂入りを果たしています。

この「明日に架ける橋」の歌詞の内容は、「君が疲れはてて、気持ちが沈んでいるとき、君の瞳から涙がこぼれ落ちたらぬぐってあげよう。友達がいなくて辛いときには、そばにいてあげるよ。濁流に架かる橋のように、僕の身を投げ出して守ってあげる。明日に架ける橋のように」というものです。

ワードファイル

ポピュラー音楽……クラシック音楽以外の1つのジャンルで、大衆音楽もしくは通俗音楽と呼ばれ、かつては、軽音楽とも呼ばれていました。

楽曲豆知識

サイモンとガーファンクル：1964年にデビューし、「サウンド・オブ・サイレンス」が1965年に大ヒットしました。また、1969年に「明日に架ける橋」がテレビで紹介されて、その後多くの歌手たちによって歌われました。ほかには「スカボロー・フェア」などの曲がよく知られています。

♪ 今回取り上げる曲 ♪♪

- 「Sing」 : 作詩・作曲 ジョー・ラポーソ
- 「明日へ架ける橋」 : 作詩・作曲 ポール・サイモン